



BYODの全学導入に向けて

久代 紀之¹

2019年度の新入生(学部生)より、個人が所有するノートパソコン等を大学に持参し、学習や研究に活用するBYOD(Bring Your Own Device)が全学に導入されます。

情報科学センターでは、上記導入に向けた情報教育・研究のための計算機基盤の検討を従前より進めてきており、本号では、その検討結果の一部である、必携ノートパソコン推奨仕様検討のための性能評価、全学導入に先駆け2018年度の情報工学部新入生向けに実施した必携ノートパソコン学内活用のための導入教育実施報告、必携ノートパソコン活用を前提とした2019年度より稼働予定の新たな情報工学教育研究用計算機基盤(システム概要)に関し報告させていただきます。

また、情報科学センターでは、上記の計算機基盤と両輪をなすものとして、情報ネットワーク基盤の整備・充実も進めています。BYOD導入の2019年度には、現在標準化が進んでいる最新規格IEEE802.11axに対応した基地局約100台を新規導入する他、学内のすべての基地局を現行規格IEEE802.11ac対応させることで、通信速度の向上およびセキュリティ強化を図っていきます。本号では、喫緊課題として、2018年度セキュリティ強化のため導入した学外公開IP管理申請システムとシステム脆弱性の推移に関し報告させていただくとともに、物理セキュリティ強化として実施した無線LANメッシュ接続を用いた防犯カメラ用ネットワークの延伸に関して報告させていただきます。

言うまでもないことですが、BYODという制度や計算機基盤・ネットワーク基盤という利用環境の整備だけでは、情報教育・研究の刷新を図ることはできません。これら制度やインフラを用いて、どのような教育・研究を展開するかを検討が最重要であり、今後全学を挙げての取り組みが必要になってくると思います。情報科学センターとしては、これら取組みの中からフィードバックされるニーズやシーズを取込み、計算機基盤・情報ネットワーク基盤のさらなる充実に取り組んでいきたいと考えております。今後とも、ご指導・ご協力をお願いいたします。

¹情報科学センター長 教授 kushiro@ai.kyutech.ac.jp